



ガーナを知ろう

GHANA

内藤 丞

広島県広島市立久地南小学校

- ◆実践教科 総合的な学習の時間
- ◆時間数 13時間
- ◆対象学年 第6学年
- ◆対象人数 43名（1組：22名 2組：21名）

カリキュラム

■実践の目的

- ・宇宙船地球号の一員として、地球に住む人々が幸せに生きていくために、子どもたちにできることを探らせる。
- ・その第一歩が、その国のことをしっかり知ることだと言うことに気づかせる。
- ・ガーナについて学び、自分たちでできるガーナへの援助について考える。

ここが素晴らしい!

母校出身の青年海外協力隊員やJICA職員、ガーナの人など、いろいろな人材を活用して、授業を構成されました。ガーナの食べ物「フーフー」を通して、生徒の国際理解を深めました。

■授業の構成

時間	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	テーマ ガーナについて基本的なことを知る ねらい ガーナのことを知り、調べていく計画を立てる	1. ガーナはどこにある国？ガーナについて知っていることを書き出してみよう ・知っていることを、紙に書かせる 2. ガーナについて基本資料を読む ・ガーナがどこにあるか ・ガーナの歴史 ・ガーナの経済 ・ガーナの言語・宗教 3. ガーナを知るためには、何を知ればいいのか考える ・インターネットや書籍では限りがある 4. ガーナについて調べていく計画を立てる ・ガーナについて学習すること ○生活 住居 食事 ○子ども 学校 生活 勉強 願い ○産業 チョコレート（シェアバター） ○青年海外協力隊員の仕事（武辺隊員・玉木隊員）	学習プリント 世界地図 ガーナの地図 ガーナの写真
4	テーマ ガーナの言葉や服装について知り、ガーナの食べ物フーフー作りに挑戦しよう（ガーナ人ドリスさん・ジャイカの蒔谷さんを招いて）	1. ガーナの言葉であいさつ ・事前に簡単なあいさつの言葉を覚えさせておく ・しっかり聞くように働きかける 自己紹介 はじめの言葉 2. ガーナの言葉を知る ・ガーナの本物の言葉をしっかり聞き、発音を覚えさせるよう働きかける 3. ガーナの服 ケンテを知る 実際に着てみる。 ・どんな布でできているのか・重さ・大きさ・値段・使い方について興味を持たせるようにする	学習プリント 世界地図 ガーナの地図 ケンテ ケンテと同じような布
	給食交流		

時間	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
5.6	<p>【児童の活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ガーナの食べ物について知る <ul style="list-style-type: none"> フーフー ケンケ キャッサバ プランテーン 食材について説明 <ul style="list-style-type: none"> フーフーパウダー ピーナッツペースト パームオイル 野菜 各班に別れて調理 <ul style="list-style-type: none"> フーフー作り スープ作り できあがった班から試食 <p>終わりの言葉</p>	<p>【教師のかかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> よく分かるように大きくした写真を何枚か用意して見せる 実際の食材であることをしっかりと押さえる キャッサバとプランテーンを粉にしたものであることを伝える パームオイルは椰子の実から取れたものであることを伝える ドリスさんや澁谷さんの言われることをしっかり聞くようにさせる しっかり手を洗わせる。ガーナ人のように手で食べるように指示する 最後はスプーンで食べてもよいことを伝える 2人のゲストティーチャーに感謝の言葉を伝えさせる 	<p>写真</p> <p>キャッサバ（本物） プランテーン（本物） ドリスさんの臼と杵 フーフーパウダー ピーナッツペースト パームオイル 野菜</p>

授業の詳細

国際理解学習で「ガーナの国の生活を知り、私たちにできないことはないか探そう」ということで、まずは、ガーナの国を知ることから始めました。その国を知るためには、その国の人の生活を知らなければならぬと考えました。生活といえば、衣食住。この時間は、その内の服と食事について学習しました。ゲストティーチャーとして、JICA職員の澁谷さんと澁谷さんのお友達の奥様、ガーナ人のドリスさんに来ていただいて一緒に活動しました。



4
時限目

- ①自己紹介・ガーナの言葉であいさつ・ガーナ人の名前
- ②ケンテ・・・ガーナ人のお祭りや儀式の時の服（日本で言う、着物）の紹介。
- ③ケンテを着てみよう。

給食
交流

ランチルームでクリスマスメニューを一緒に食べました。

5・6
時限目

ガーナ料理「フーフー」に挑戦です。題して「オリジナルフーフーをつくるう」です。事前に、フーフーとはどんなものか、写真で見たりして学習しました。班ごとに、スープはどうするかを考えていました。そのスープは、カレーライス味・ハヤシライス味・クリームシチュー味、そして、ガーナ味です。食材は、「フーフーパウダー」+スープです。

ドリスさんの指示に従って、作り始めました。フーフーパウダーをなべに入れて水を加えながら、火にかけこねます。ふくらんできました。そこで、ボールに入れて形を整えます。（こね方によって味が全くちがってきました・・・後から分かったことですが）同時進行でスープを作り始めます。

ガーナ味のスープは、タマネギをしっかり炒め、水を入れます。このときブイヨンも入れます。少し立ってから、ピーナッツペーストとトマトジュース（ほんとうはトマトとなす）を入れます。煮詰まったら、オクラを入れて、できあがりです。

盛りつけて、試食です。大人半分の量で作ったのですが、給食の後のこともあって、残念ながらあまり美味しいという声は挙がりませんでした。ガーナ人のように手で食べる体験をして、子どもたちはしっかりガーナ人になったようです。

この後本当は、質問コーナーと記念撮影だったのですが、時間がなくてできませんでした。後は、

メールで澁谷さんに質問することになっています。



子どもたちのお礼の手紙から

ドリスさんへ

- ・15日はありがとうございました。あのときはいろいろなことを教えてくださいましたね。あのフーフーの味はわすれません。ちょっとびみょーでしたがおいしかったです。また、ガーナから久地南小学校にきてください。
- ・先日は、久地南小学校にきてくださってありがとうございました。ほくは、ドリスさんたちが、ケンテの話をしているとき、ほくは「ガーナの服ってこんなに大きいんだな。」と思いました。そして、次はフーフー作りでした。ほくはフーフーを作っているときに、「ほんとにこのえきたいの物がかたまってくるのかなー？」と思いました。でもまぜているうちにどんどんかたまってきたととてもびっくりしました。次は盛りつけでした。盛りつけをしようとしたら、ドリスさんがきて、プロのように盛りつけをしてしまいました。そのとき、すごいなーと思いました。食べるとおいしかったです。なので次は、ドリスさんの手作りのフーフーを持ってまたきてください。



澁谷さんへ

- ・12月15日に私たちにいろんな事を教えてくださいましてありがとうございました。私はガーナ語がわからないので通訳してくれたときは「へーそうなんだ。」といういろいろわかりました。カーテンみたいなのが、服と聞いたとき「えっこれが

服なの？」と思いました。着てみたらけっこう重かったです。フーフーは、私たちはガーナの味だったのでどういう風に作るかわからなかったけど通訳してもらって、「あっもう一回水を入れるんだ。」とわかりました。フーフーのスープは、とてもおいしかったです。私は初めて食べてみて、フーフーはこんなのだったんだと思いました。今日は本当にありがとうございました。



- ・この間はガーナのことを教えてくださいましてありがとうございました。ほくはガーナのことをゼーンゼーン知らなかったけど、ドリスさんと澁谷さんのおかげで、いろいろなことがわかりました。ありがとうございました。それにフーフーの作り方を教えてくださったりして、ありがとうございました。ほくは、澁谷さんと一緒にフーフーを食べました。フーフーはほくは口に合わなかったけど、へいきで食べる澁谷さんを見てすごいなーと思いました。こんどもしフーフーを作ったら、おいしいのを作りたいです。ガーナのことを教えてくださいまして本当にありがとうございました。

授業を振り返って

「国際理解学習」の年間計画の中で、いろいろな学習を通して子どもたちに、常に自分たちが宇宙船地球号の一員であることを意識させて指導していった。宇宙船地球号を見ると、あちらこちらでいろいろな問題が起こっている。地球に住むすべての人たちが幸せになるためにはどうしたらよいかを考えると、「国際協力」という言葉が出てくる。しかし、ただお金を送る・物を送ることが「国際協力」ではないことを子どもたちは学習してきて知った。「国際協力」をするためにはまず、その国のことを知らなければならない。それから、その国への協力の仕方にはどんなことができるのかをさぐっていかななければならない。

その課程の中で「ガーナの学習」をやった。指導する側が行ったことのある国は、実際の経験や

見てきたことを具体的に話せるので、児童にとっては興味を持てた。また、太鼓やチョコレート・ビーズなど具体的に収集した物を提示することもできたので、しっかりと手でさわると疑似体験的なこともでき、意欲的に取り組むことができた。ガーナの人の食をさぐる授業「フーフー作りに挑戦」では、東京の食材屋さんから、フーフーパウダーなどを手に入れることができ、本当に近い味の「フーフー」を作れたことはとても良かった。また、ゲストティーチャーにドリスさんに来ていただいたことは、より効果的であった。

今後

3学期は、いよいよ協力隊員に実際にメールで連絡を取り、自分たちの考えた「国際協力」の仕方が有効であるか検証していきたい。そして少年海外協力隊として、実践していきたい。